

令和 3 年度

千曲市道の駅(地域防災拠点)設置可能性
概要調査報告書

令和 3 年10 月 25 日

事業コーディネート企画

■ はじめに

(1)「道の駅(地域防災拠点)」設置にあたり

千曲市は善光寺詣りの精進落としての湯として知られる戸倉上山田温泉、竪穴式石室古墳では東日本最大級の森將軍塚、一目十万本と言われる日本一を誇る森・倉科の杏など、全国に発信できる観光資源に恵まれ、特に姨捨棚田は「月の都 千曲」として日本遺産に認定されるなど、観光素材は豊富にあります。

また、国道18号が市内を南北に縦断し、長野自動車道と上信越自動車道のジャンクションを有する交通の要所です。

天候面で恵まれているので、農産物も多岐にわたります。稲作や麦などの他に、果樹栽培が盛んな地域で、中でも「アンズ」は国内生産の約4割を占める規模となっています。

令和元年東日本台風で千曲市は甚大な被害を受けました。中でも防災センターが設置してある市役所の周辺道路が冠水し、出入りができなくなるなどしたため、洪水に対応できる「第2の防災センター」が求められていることから、防災拠点となる駅の設置が必要な状況です。

千曲市は全国に発信できる観光資源を持つ交通の要所でありながら、その魅力を一元的に伝えることのできる機能が弱く、農産物は生産者の担い手不足などの要因により、活力低下を招いています。

多機能拠点の「核」となる道の駅の存在は、より多くの消費行動に結びつくことが考えられ、防災・観光・産業振興などの分野において地域経済にプラス効果があります。更に道の駅には「ハブ空港」的な機能を持たせ、市内の地域拠点とネットワークを構築して、市外からの交流人口を呼込む役割も期待できます。

(2)「道の駅」の概要

道の駅は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の3つの基本的な機能で構成され、平成5年の制度発足以来、道路利用者へ休憩や情報などのサービスを提供する場（第1ステージ）として役割を担っていました。

平成25年以降は「道の駅が目的地」となる第2ステージとして成長してきました。

➤「道の駅」第3ステージへ ～新たなチャレンジ～

国交省は第3ステージとして「2025年に目指す3つの姿」をとりまとめました。これからの「道の駅」には、道路利用者や地域住民の利便性に寄与すること、地域活性化の拠点にすること、多様な主体との連携やインバウンドへの対応などあらゆる役割を求めています。

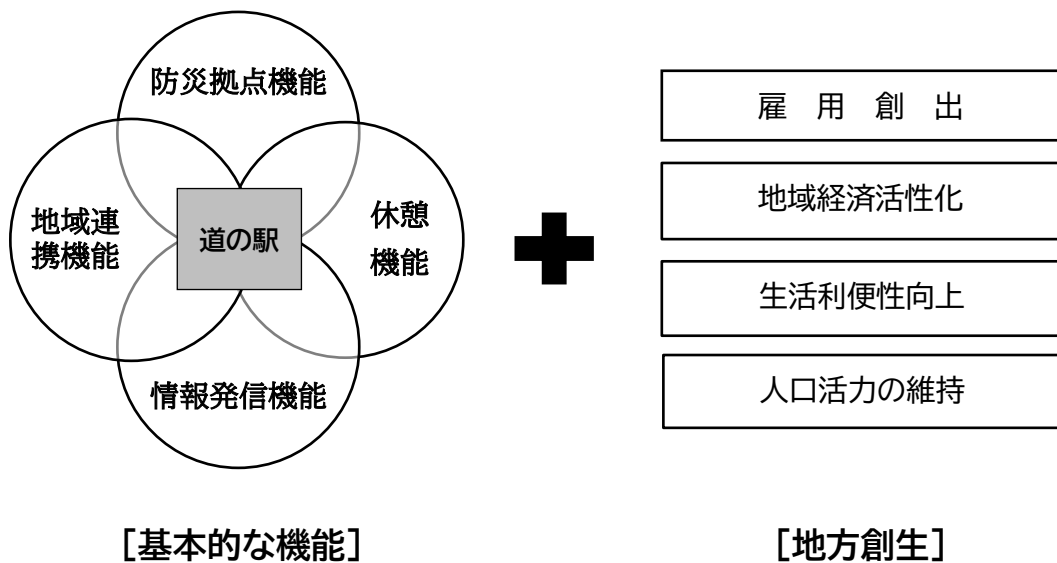
I 新たなコンセプト

「地方創生・観光を加速する拠点」+「ネットワーク化」

II 「2025年に目指す3つの姿」

- ①「道の駅」を世界ブランドへ
- ②新「防災道の駅」が全国の安心拠点に(広域防災、地域防災の機能強化)
- ③あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

*千曲市は防災拠点としての機能を柱に据えています



(3)「道の駅」の分類

- 道の駅は現在、全国に1,193箇所(令和3年6月11日第55回登録)あります。
- それらは立地する場所や地域の状況に応じて、様々な特徴を持っています。
- 道の駅が主に対象とするお客様を「観光客」、「通過客」、「地域住民」に分けて考えると、道の駅は3つに分類されます。

- 「観光客」をメインターゲットにするタイプ【ゲートウェイ型】
- 「通過客」をメインターゲットにするタイプ【ロードサービス型】
- 「地域住民」をメインターゲットにするタイプ【地域サービス型】

■ 計画条件整理

1. 千曲市周辺における道の駅整備状況

(1) 県内の道の駅について

- 長野県内には 52 の駅があり、ほぼ全県を網羅しています。ただし、人口密度の高い長野市(中条、信州新町、大岡は除く)、千曲市、須坂市、坂城町には駅がありません。(10p「県内の道の駅」参照)
- 一部を除きほとんどは駐車台数が 100 台に満たない小型版で、取扱い商材も少なく、防災機能も持ち合わせていません。(12p「近隣駅の駐車場比較」参照)
- 長野市の若穂地区住民自治協議会が、地区内に整備予定の上信越自動車道スマート IC 近くに新たな道の駅を設置するよう長野市に要望しました。(9/18 信濃毎日新聞)

(2) 防災道の駅について

- 本年 6 月に「防災道の駅」として全国で 39 駅が初めて選定されました。(13p「防災道の駅」参照)
- 県内では塩尻市の「小坂田公園」、近隣では新潟県妙高市「あらい」、山梨県富士川町「富士川」などが選定されています。
- 選定要件
 1. 都道府県が策定する広域的な防災計画(地域防災計画もしくは受援計画)及び新広域道路交通計画(国交省と都道府県で策定中)に広域的な防災拠点として位置づけられていること
※ハザードエリアに存する場合は、適切な対応が講じられていること
 2. 災害時に求められる機能に応じて、以下に示す施設、体制が整っていること
 - ①建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保等により、災害時においても業務実施可能な施設となっていること
 - ②災害時の支援活動に必要なスペースとして、2,500㎡以上の駐車場を備えていること
 - ③道の駅の設置者である市町村と道路管理者の役割分担等が定まったBCP(業務継続計画)が策定されていること
 3. 2. が整っていない場合については、今後3年程度で必要な機能、施設、体制を整えるための具体的な計画があること

2. 千曲市における地域活性化等の課題

- 千曲市防災ガイドブック保存版によると、一部を除き、ほとんど市内全域が災害危険区域になっており、車で逃げる場所も駐車スペースもほとんどありません。
- 千曲市は全国に発信できる観光資源と交通の要所でありながら、その魅力を伝える情報発信力が弱いと思われます。
- 農産物は朝取り野菜などを安定して販売できる施設が少ないことや、生産者の担い手不足などの要因も重なり、活力低下を招いています。後継者不在も顕著で、遊休地が増えている状況です。

3. 千曲市の状況・目的と整合する道の駅について

(1) 整備目的

- 災害時に対応できる各種機能を集積整備し、リスク管理を図ります。
- 多くの人を訪れるので、観光PRの促進や観光情報の発信が可能です。
- 全国に向け、情報発信をすることにより、人の流入を促します。
- 朝取り野菜の他に、6次産業化を育成し生産者の収入アップと雇用の促進を図ります。
- 市民の集う場を提案し、市外へ流出している消費を市内へ還元させます。

(2) 参考とする道の駅の選定

- 千曲市は「防災拠点機能」、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の4つの機能を持ち合わせ、収益性の高い持続可能な道の駅を求めています。
- 上記を踏まえ「川場田園プラザ」、「もてぎ」、「とみうら」、「萩しーまーと」、「あらい」、「どまんなか たぬま」、「ららん藤岡」の7つを千曲市が参考とすべき駅と選定し、可能な限り成功事例を取入れていきます。（*詳細はP11～P15）

4. 周辺環境について

(1) 市内の類似施設

- ① 千曲市に道の駅はありませんが、駅に類似する農産物直売所は多数あります。食料品スーパーは全店舗に、一部のドラッグストア、コンビニでも取扱っています。直売を強みとした専門店もあります。
- ② 市内外の幹線道路沿いに多数の飲食店があります。軽食、ファストフード、各種チェーン店から専門店を集積した施設やフードコート形式まで、様々なものがあります。

(2) 市外の類似、競合施設

- ①長野県内には数多くの「道の駅」があり、農産物直売所を核に飲食ゾーンを配置しています。ほとんどが駐車台数 100 台未満の小型サイズです。
- ②防災道の駅の認定は、長野県内では塩尻市「小坂田公園」と、近場では新潟県妙高市「あらい」だけです。
- ③2024 年、須坂市に大型 SC がオープンします。商業のみならず市町村の勢力図を大きく書き換える相当なインパクトが出ます。

■ 千曲市道の駅コンセプト

「収益性の高い持続可能な多機能拠点」

▶ 収益性の高い持続可能な駅

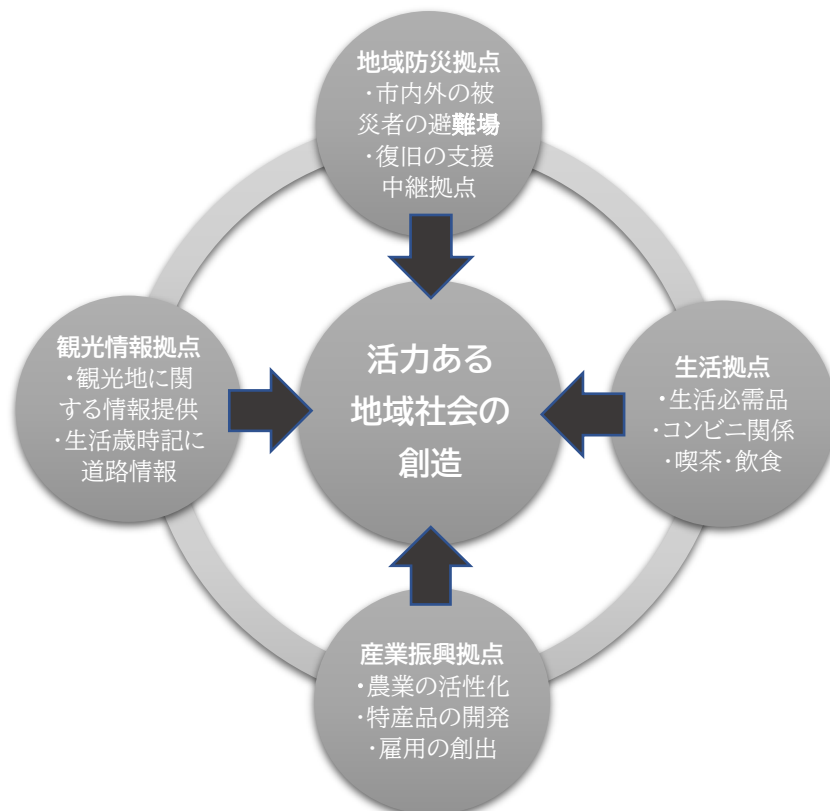
- 誰もが安全で安心して利用できる駅
- 地域に必要とされる駅
- 地域に活力を与える駅
- 地域の賑わいを創出した駅 etc

▶ 活力ある地域社会の創造：多機能拠点

- ① 地域防災拠点：総合的な防災施設などの集積・避難所など
- ② 生活関連拠点：生活必需品（生鮮3品）・コンビニ関連・飲食関連
- ③ 産業振興拠点：農業の活性化・特産品の開発・雇用の創出
- ④ 観光情報拠点：観光に関する情報提供・各種道路情報

多くの機能を取り込み、収益性の高い持続可能な道の駅を目指します。
次世代へ繋ぐ「千曲モデル」を構築します。

コンセプトのイメージ



■ テーマ、キーワード

テ ィ マ：稼ぐ力（補助金・助成金に頼らない健全経営）

キーワード：100 万人が集う駅

1. 道の駅の課題

- 道の駅は地域発展の起爆剤と期待され、多額の資金が投入されたにもかかわらず、お荷物と化している駅も少なくありません。約 3 割は赤字と言われていて、補助金・助成金で黒字としている駅も多いようです。
- 赤字転落の原因は財務、収益、運営の 3 つに集約されます。

(1) 財務

• 過剰投資

初期費用は国や自治体が負担してくれるケースが多いため、安易に建物設備など過剰投資に走り、後々多額な減価償却費、施設の更新、維持管理費用など問題が発生します。

施設の老朽化に伴い、大規模な修繕などを迫られ閉鎖する駅もあります。京都府相楽郡和束町の「茶処和束」は 2004 年、兵庫県宍粟市の「山崎」は 2013 年に、それぞれ道の駅登録抹消となっています。

(2) 収益

• バラツキの大きい売上

道の駅は平日と休日、トップシーズンとオフシーズンで来場者数が極端に乱高下するので、売上を平準化することは難しいと思われます。

店舗運営に不慣れな駅が多く、販促策に乏しいため集客力が弱く、売上不振＝収益悪化の悪循環を招いています。

(3) 運営

• 体制と人材

駅は慈善事業ではありません。駅長は名誉職でもありません。赤字を出さない経営手腕が求められます。

2. 道の駅の課題解決策

収益性の高い持続可能な道の駅にするために、抽出された 3 つの課題に対して具体策を講じる必要があります。

(1) 財務：過剰投資対策に向けて

- 精度の高い厳格な売上予想を基に、収支を算出することが第一です。
- 建物設備や遊戯施設がお客様の評価基準ではありません。
- 早期の黒字化と施設の魅力アップを図るため、投資は段階的に行います。
- 身の丈にあった経費予算を策定する必要があります。

(2) 収益：バラツキ改善に向けて

- 主たる顧客を定め、その顧客の満足度を上げる策を講じ、その上で更なる収益向上策を施します。
- 主たる顧客＝地元住民をリピーターとすべく、各種集客策を連打します。
- 繁閑の差が大きいので、店舗外での売上確保策、閑散期対策を講じる必要があります。
- 地元住民が足繫く通う駅という評判が、観光客を呼び込む方策に繋がります。

(3) 運営：持続可能な経営に向けて

- 困難を克服できる経営能力のある人材確保が重要です。
- 市内には、経験や高い知見を持って定年を迎えた方々もおり、地域活性化に貢献したいと意欲を持っている人材を登用することが望まれます。

■ 予想される整備効果

道の駅が有する防災拠点機能、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を活用することによって、次のようなことが期待されます。

- 道の駅を核として、総合的な機能集積により千曲市の新しい中核地域としての一翼を担う。
- 道の駅の機能性、多様性を活用し、地域の防災拠点となる。
- 道の駅の集客力、情報発信力を活かし、地域産品や観光資源の認知度を高め、ブランド化の推進や観光関連産業の振興に寄与する。
- 道の駅整備に併せて、子育て、高齢者福祉、行政サービス、交通網等の地域サービス機能を複合的に担うことにより、道の駅地区が「小さな拠点」を形成する。

■ 道の駅整備の経済的効果

道の駅整備を進めるにあたっては、整備が行われた場合の地域経済への影響や効果の把握が重要になってきます。現時点では、場所、導入する機能、運営主体等が未定であるため算出できません。成功事例、先進事例を参考に、詳細な検討を行うことが課題です。

■ 予想される地域貢献(地域住民の利便性向上)

1. 地場産品のPRや市内外消費の促進

- 100万人が集う駅を目指し、市外に流失している消費に歯止めをかけ、更に市外からの流入を促します。

2. 新たな特産品の開発と販売促進の強化

- 千曲市の強みや十分伸びしろのある商材を開発し、農産物の消費の拡大や販売促進を図ります。
 - 特産品開発：中元・歳暮・年間定番ギフト、おせちや各種オードブル
 - 販売促進策：各種集客イベント、ふるさと納税、その他

3. 地域交通のターミナル機能

- 高速道 IC、国道、バイパスに隣接し、道の駅に指定されれば多くの地元住民と観光客が利用します。トイレ、休憩所、買い物、食事、観光案内などいろいろな便宜が図られることと、人が集まる仕組みができます。

4. 農地の遊休化防止が図られる

- 農産物提供者が増加することで、農地の遊休化防止に期待できます。
- 先進事例では、第一線を退いた高齢者や女性の、趣味と実益を兼ねた生きがい対策ともなっています。

5. 就業機会の拡充

- 規模にもよりますが、就労の場を確保できます。

県内の道の駅

- 長野県内には 52 の道の駅（以下「駅」という）があり、ほぼ全県を網羅しています。ただし人口が密集している北信の中核都市である長野市（信州新町・中条・大岡を除く）と千曲市、須坂市、坂城町には駅がありません。

	道の駅名	登録路線	住所	登録日	供用日
1	信越さかえ	国道 117 号	下水内郡 栄村	H5.4.22	H6.1.6
2	花の駅千曲川	国道 117 号	飯山市	H17.8.10	H14.4.19
3	野沢温泉	国道 117 号	下高井郡 野沢温泉村	R1.6.19	R1.8.31
4	FARMUS 木島平	国道 403 号	下高井郡 木島平村	H27.4.15	H27.5.1
5	北信州やまのうち	国道 292 号	下高井郡 山ノ内町	H10.4.17	H9.12.20
6	ふるさと豊田	国道 117 号	中野市	H9.10.22	H9.10.5
7	しなの	国道 18 号	上水内郡 信濃町	H11.8.27	H11.4.21
8	おがわ	県道 31 号	上水内郡 小川村	H19.8.10	H8.5.11
9	オアシスおぶせ	県道 343 号	上高井郡 小布施町	H14.8.13	H12.4.1
10	中条	県道 31 号	長野市	H7.4.11	H7.5.9
11	信州新町	国道 19 号	長野市	H5.4.22	S63.4.30
12	長野市大岡特産センター	国道 19 号	長野市	H5.4.22	H2.4.11
13	上田道と川の駅	国道 18 号	上田市	H10.4.17	H22.4.1
14	美ヶ原高原	県道 464 号	上田市	H19.8.10	S54.9.1
15	あおき	国道 143 号	小県郡 青木村	H17.8.10	H18.4.27
16	みまき	県道 40 号	東御市	H7.4.11	H7.4.26
17	雷電くるみの里	県道 79 号	東御市	H15.8.8	H15.9.28
18	マルメロの駅ながと	国道 152 号	小県郡 長和町	H9.10.22	H10.3.26
19	女神の里たてしな	国道 142 号	北佐久郡 立科町	H29.11.17	H29.12.16
20	ほっとぽ〜く・浅科	国道 142 号	佐久市	H10.4.17	H10.11.3
21	ヘルシーテラス佐久南	国道 142 号	佐久市	H28.10.7	H29.7.8
22	小谷	国道 148 号	北安曇郡 小谷村	H11.8.27	H11.10.1
23	白馬	国道 148 号	北安曇郡 白馬村	H8.4.16	H6.4.30
24	ぼかぼかランド美麻	県道 31 号	大町市	H12.8.18	H13.6.4
25	安曇野松川	県道 306 号	北安曇郡 松川村	H10.4.17	H9.11.19
26	池田	県道 51 号	北安曇郡 池田町	H7.4.11	H7.7.19

	道の駅名	登録路線	住所	登録日	供用日
27	いくさかの郷	県道 275 号	東筑摩郡 生坂村	H30.4.25	H31.4.27
28	さかきた	国道 403 号	東筑摩郡 筑北村	H12.8.18	H13.6.9
29	アルプス安曇野 ほりがねの里	県道 57 号	安曇野市	H10.4.17	H8.5.19
30	風穴の里	国道 158 号	松本市	H10.4.17	H5.6.29
31	今井恵みの里	県道 298 号	松本市	H21.7.31	H21.8.2
32	小坂田公園	国道 20 号	塩尻市	H7.4.11	H7.7.1
33	奈良井木曾の大橋	国道 19 号	塩尻市	H5.4.22	不明
34	木曾ならかわ	国道 19 号	塩尻市	H11.8.27	不明
35	ビーナスライン蓼科湖	県道 192 号	茅野市	R2.7.1	R2.7.17
36	信州蔦木宿	国道 20 号	諏訪郡 富士見町	H10.4.17	H11.4.1
37	木曾川源流の里 きそむら	国道 19 号	木曾郡 木祖村	H22.8.9	H22.11.5
38	日義木曾駒高原	国道 19 号	木曾郡 木曾町	H5.4.22	不明
39	木曾福島	国道 19 号	木曾郡 木曾町	H22.8.9	H22.11.1
40	三岳	県道 20 号	木曾郡 木曾町	H11.8.27	不明
41	大桑	国道 19 号	木曾郡 大桑村	H5.4.22	不明
42	南アルプスむら長谷	国道 152 号	伊那市	H9.4.11	不明
43	大芝高原	村道	上伊那郡 南箕輪村	H30.4.25	H30.7.21
44	花の里いいじま	県道 15 号	上伊那郡 飯島町	H14.8.13	H14.8.2
45	田切の里	国道 153 号	上伊那郡 飯島町	H28.5.10	H28.7.16
46	歌舞伎の里大鹿	国道 152 号	下伊那郡 大鹿村	H30.4.25	H30.8.9
47	南信州とよおかマルシェ	村道	下伊那郡 豊岡村	H29.11.7	H30.4.27
48	遠山郷	国道 152 号	飯田市	H17.8.10	H17.9.17
49	信濃路下條	国道 151 号	下伊那郡 下條村	H7.8.3	不明
50	信州新野千石平	国道 151 号	下伊那郡 阿南村	H12.8.18	H13.4.20
51	信州平谷	国道 153 号	下伊那郡 平谷村	H6.8.4	不明
52	南信州 うるぎ	県道 46 号	下伊那郡 売木村	H30.4.25	H30.11.1

(国土交通省関東地方整備局・中部地方整備局各HP及びウィキペディアより)

近隣駅の駐車場比較

- 多くの駅は駐車台数が100台に満たない小型版なので、施設面で見劣りがします。そのため集客力が弱く、防災機能も持ち合わせていません。

NO	道の駅名称	所在地	駐車台数		
1	信越さかえ	栄村	大型 4 台	普通車 29 台	計 33 台
2	花の駅千曲川	飯山市	大型 4 台	普通車 96 台	計 100 台
3	野沢温泉	野沢温泉村	大型 7 台	普通車 36 台	計 43 台
4	FARMUS 木島平	木島平村	大型 3 台	普通車 53 台	計 56 台
5	北信州やまのうち	山ノ内町	大型 13 台	普通車 40 台	計 53 台
6	ふるさと豊田	中野市	大型 13 台	普通車 66 台	計 79 台
7	しなの	信濃町	大型 12 台	普通車 72 台	計 84 台
8	オアシスおぶせ	小布施町	大型 5 台	普通車 181 台	計 186 台
9	中条	長野市	大型 5 台	普通車 54 台	計 59 台
10	信州新町	長野市	大型 6 台	普通車 55 台	計 61 台
11	長野市大岡特産センター	長野市	大型 10 台	普通車 69 台	計 79 台
12	道と川の駅	上田市	大型 25 台	普通車 66 台	計 91 台
13	美ヶ原高原	上田市	大型 15 台	普通車 800 台	計 815 台
14	あおき	青木村	大型 8 台	普通車 50 台	計 58 台
15	みまき	東御市	大型 3 台	普通車 76 台	計 79 台
16	雷電くるみの里	東御市	大型 20 台	普通車 100 台	計 120 台
17	マルメロの駅ながと	長和町	大型 15 台	普通車 41 台	計 56 台
18	女神の里たてしな	立科町	大型 23 台	普通車 66 台	計 89 台
19	ほっとば〜く浅川	佐久市	大型 7 台	普通車 34 台	計 41 台
20	ヘルシーテラス佐久南	佐久市	大型 30 台	普通車 111 台	計 141 台
*	小坂田公園	塩尻市	大型 10 台	普通車 282 台	計 292 台
*	あらい	妙高市	大型 12 台	普通車 450 台	計 462 台

- ・*は国交省認定「防災道の駅」駅です。
- ・「あらい」は売上日本一 25 億円です。

防災道の駅

No	都道府県	市町村	道の駅名
1	北海道	天塩町	てしお
2	北海道	ニセコ町	ニセコビュープラザ
3	北海道	猿払村	さるふつ公園
4	北海道	厚岸町	厚岸グルメパーク
5	青森県	七戸町	しちのへ
6	岩手県	遠野市	遠野風の丘
7	秋田県	大仙市	協和
8	山形県	飯豊町	いいで
9	福島県	猪苗代町	猪苗代
10	茨城県	大子町	奥久慈だいご
11	栃木県	壬生町	みぶ
12	群馬県	川場村	川場田園プラザ
13	千葉県	八千代市	やちよ
14	長野県	塩尻市	小坂田公園
15	山梨県	富士川町	富士川
16	新潟県	妙高市	あらい
17	石川県	輪島市	のと里山空港
18	岐阜県	大野町	パレットピアおおの
19	静岡県	富士宮市	朝霧高原
20	愛知県	豊橋市	とよはし
21	三重県	志摩市	伊勢志摩
22	福井県	大野市	越前おおの荒島の郷
23	滋賀県	甲良町	せせらぎの里こうら
24	兵庫県	朝来市	但馬のまほろば
25	奈良県	奈良市	(仮称) 中町
26	和歌山県	すさみ町	すさみ
27	岡山県	玉野市	みやま公園
28	広島県	東広島市	西条のん太の酒蔵
29	山口県	周南市	ソレーネ周南
30	徳島県	板野町	いたの
31	香川県	綾川町	滝宮
32	愛媛県	久万高原町	天空の郷さんさん
33	高知県	四万十町	あぐり窪川
34	福岡県	うきは市	うきは
35	長崎県	佐世保市	させぼっくす99
36	熊本県	芦北町	たのうら
37	大分県	由布市	ゆふいん
38	宮崎県	都城市	都城
39	鹿児島県	垂水市	たるみずはまびら

日経トレンディ 9月号に掲載された「防災道の駅」

駅名	所在地	売上	備考
パレットピアおおの	岐阜県		
川場田園プラザ	群馬県	20 億円	
但馬のまほろば	兵庫県		観光、農業など地場の強みを凝縮
いたの	徳島県		
越前おおの荒島の郷	福井県		アウトドア志向、3 ヶ月で 20 万人
とよはし	愛知県	16 億円	高い情報発信力で 200 万人集客
朝霧高原	静岡県		
遠野風の丘	岩手県		
猪苗代	福島県	5 億円	来場者 90 万人、生どら焼き 9 万個
うきは	福岡県		果物に強み、訳アリコーナー人気
たるみずはなびら	鹿児島県	2 億円	オープンから 3 年目で 200 万人

千曲市の参考になる道の駅の選定について

参考となる道の駅は、下記の3点を念頭に7駅を選定しました。

- ◆地域活性化と防災の拠点として、優れた機能を継続的に発揮している
- ◆道の駅の機能を持ち合わせ、千曲市の状況・目的と整合性が取れている
- ◆持続可能な経営が出来うる運営をしている

① 道の駅 「川場田園プラザ」 （群馬県 利根郡川場村）	
「農業プラス観光」で人口3,600人の村に年間190万人が来訪。リピート率は7割	
入場者数—190万人 年間売上—20億円 村内人口—3,600人 駐車台数—880台 （大型5,普通車850,身障者25） 国交省認定「防災道の駅」	○農業プラス観光 <ul style="list-style-type: none"> • 園内は朝取り野菜・ブルーベリーや乳製品などの地域資源を活かし、果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供 ○地域のゲートウェイ <ul style="list-style-type: none"> • 観光協会スタッフが常駐し、宿泊、体験もできる
○現在に至るまでの経緯 <ul style="list-style-type: none"> • 2000年開業するが売上が伸び悩み、2007年赤字転落。同年この窮状を打開するため、川場村は経営危機の「田園プラザ」の再建を永井彰一氏（現社長）に託した。 • 就任当初入込客数約62万人が3倍の200万人。売上は20億円となり、V字回復を達成する。 	
○「プレミアム道の駅」を目指した改革 <ul style="list-style-type: none"> • プレミアムな商品開発が「カワバプレミアム」ブランドを生み出す。 • 最先端の店を研究した店作りが、お客様の心に響くパッケージ・ディスプレイになっている。 • 地元産の食材に甘えない商品作り—「地産地消という名の自己満足の魔法に陥るな」 	
○多彩な集客装置とリピーター育成 <ul style="list-style-type: none"> • 従来の道の駅が持つイメージに縛られない理念と構想のもと、永井社長の求める全体環境がバランス良く構成・統一されている。 • 飲食ゾーンは、和洋中の専門店の他に、イタリアン・ドイツ料理、更にスナック・軽食まで集積している。使用素材、調理スキルも高いので、リピーター育成にも貢献している。 • ファーマーズマーケットの売上は約7億円。5億円が農家生産者へ還元されている。農家が売り方を自分で考え、その結果が収入となり、農地の遊休化防止と高齢者の生きがい対策ともなっている。→事業にかかわる全員が駅を盛り上げている。 	

② 道の駅 「もてぎ」 （栃木県 芳賀郡茂木町）

「真岡鉄道のSL」など地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能

入場者数ー200万人

年間売上ー10億円

町内人口ー11,600人

駐車台数ー346台

（大型5,普通車337,身障者4）

○「道の駅」を核とした6次産業化

- 「道の駅」が農家から柚子等を全量買取、手作業で加工し、更にオリジナル商品(33種類)を開発、販売。特にゆず塩ラーメンが名物。

○地域の防災拠点

- 防災力向上のための防災館を併設、平時から防災啓発に活用

○ふるさと納税の推進

- 道の駅の商品をふるさと納税のお礼として地域PRに活用

○地域のにぎわいの拠点

- 道の駅のまわりは、SLが走る真岡鉄道（運行は毎週土・日・祝日）と季節の花が楽しめる。
- 十石河川公園があり、ファミリーで1日楽しめるように配置されている。
- 民間出身の町長が駅長を兼ねており、民間目線で駅運営を行っている。。町の産業振興課が駅内にもあり、官民一体で活動している。

○仕掛けが豊富な集客策

- 町長が町と道の駅のトップを兼任しているので、実行はトップダウンでスピーディーです。「おとめミルクアイス」や道ー1グランプリの初代グランプリ獲得「ゆず塩ら〜めん」を開発した。
- 道の駅ファンクラブ「もてぎすきだっぺクラブ」を創設、現在会員数は3,000人を超える。
- オンラインショッピングも活発で、ふるさとギフトや地元産野菜徳用セットなど、駅外での収益確保にも積極的な取り組みをしている。

③ 道の駅 「とみうら」 （千葉県 南房総市）

「観光資源（びわ等）をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ販売」

入場者数ー50万人

年間売上ー6億円

市内人口ー37,600人

旧富浦町ー5,600人

駐車台数ー90台

（大型10,普通車78,身障者2）

○「道の駅」を核とした6次産業化

- 「道の駅」が中心となり特産のビワを加工、オリジナル商品（50種類）を開発、販売

○地域の伝統・文化の継承・交流のための取り組み

- 富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用

○観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ売り込む

- 観光客の動員を目的に、道の駅が旅行業資格を取得する。観光資源をパッケージ化し、道の駅が農家と都市部の旅行代理店の橋渡し役を担う「一括受発注システム」を開発。
- その結果駅オープン後、富浦町を訪れる観光客は3倍、100万人を超える規模になっている。

④ 道の駅 「萩しーまーと」 （山口県 萩市）

「地元業者とともに、魚の加工品を開発。その商品は、おみやげ品として大ヒット」

入場者数－140 万人
年間売上－11 億円
市内人口－46,000 人
駐車台数－81 台
(大型 10, 普通車 78, 身障者 2)

○萩漁港の水揚げ高の約 15%を販売し、地産地消に寄与
魚食普及・食育の拠点として地域活動を実施

○地元加工業者と連携して生み出したヒット商品は、地
域全体の活性化に貢献

○国交省認定「全国モデル『道の駅』」に導いた地域密着経営

・持続可能な経営を行うことを念頭に、競争力のある駅にするため主力顧客を地元住民に
絞り地元でしか流通していない魚の発掘に努めヒット商品を生み出した。魚屋だけでなく
青果や精肉店も招致して「公設市場」とし、集客力の高い安定経営ができる仕組みを作っ
た。

⑤ 道の駅 「あらい」 （新潟県 妙高市）

「防災道の駅認定、豪雪地域防災の要。道の駅売上は日本一」

入場者数－320 万人
年間売上－25 億円
市内人口－31,000 人
駐車台数－462 台
(大型 12, 普通車 444, 身障者 6)
国交省認定「防災道の駅」

○国交省認定防災道の駅

豪雪地帯にあって、環境・観光ともに配慮した防災拠点
駅。

上信越自動車道あらい PA、スマートインターチェンジに
併設。

R2 年拡張工事済み

○魅力的な飲食ゾーンからコンビニ、ホテルまで、多彩な集客装置をフル装備した駅

・観光案内所をはじめ物産館、農産物直売所、鮮魚センター、ラーメン、そば、回転寿
司、ベーカリーなど飲食が特に充実している。中でも鮮魚センターは競争力があり、広域
から集客している。

⑥ 道の駅 「どまんなか たぬま」 （栃木県 佐野市）

「地元住民をメインターゲットとして、何でも揃う購買体験の場を提供」

入場者数—210 万人
年間売上—16 億円
市内人口—116,000 人
旧田沼町—30,000 人
駐車台数—442 台
(大型 22, 普通車 418, 身障者 2)

○オープンするまでの経緯

- ・2005 年田沼町の県道 16 号線沿いにオープン。トラックやダンプカーしか通らない産業道路が、年間 200 万人を超す駅に発展した。
- ・道の駅の多くは週末にしか集客できないと危惧した田沼町は、安定経営を目的に商業施設のプロを栃木県に依頼し、東武宇都宮百貨店に人材派遣を要請した。

○商業施設の経営ノウハウをもとに、百貨店手法を幅広い品揃えと集客策に活かす

- ・県道 16 号線は日中は産業道路である一方、朝夕は通勤などに使用される地域住民の生活主要道路であり、周辺は商業集積も進んでおらず、魅力的なマーケットになり得ると確認する。
- ・誰に一地元住民（地元住民：観光客＝7：3）、何を一喜ばれる物（地元の物も外の物も）
- ・安定した集客は道の駅の全国共通した課題。その克服策はバラツキを平準化させること。

- ①軽食から本格的なレストランまで、充実した飲食の集積（幅広い年代層対策）
- ②催事業者と組み、北海道物産展をはじめ全国各地の物産展を開催（農閑期・端境期対策）
- ③物産業者のネットワーク活かして駅外での販売機会・売上増を図る（販売網拡大対策）

○多目的施設を活用して地域全体の活性化に貢献

- ・各種市民イベントや発表会などを開催している。

⑦ 道の駅 「ららん藤岡」 （群馬県 藤岡市）

赤字経営から黒字会社へ転換、そのポイントは年間を通した集客力

入場者数—270 万人
年間売上—未確認
市内人口—64,500 人
駐車台数—292 台
(大型 10, 普通車 273, 身障者 9)

○充実した飲食コーナーと物販の集積

- ・和洋中総合レストランから和食 3 店、中華 2 店の他に、軽食、ベーカリーに至るまで、飲食は 10 のテナントは配置し、ほぼフルライン展開をしている。
- ・群馬県の農産物直売、肉屋、生花、土産コーナーがある。ガトーフェスタハラダ直売所もあり、圧倒的な集客力を誇る。

○賑わいと安らぎを合わせ持つ交流空間

- ・1999 年オープン。数年間は赤字が続いていたが、現在は施設形態を活用した市民イベントを開催し、年々利用客が増加し黒字経営へ転換した。2009—2015 年関東「好きな道の駅」ランキングで第 1 位となった。

○交通の要所、立地特性を最大限に活かす

- ・県道 13 号線と関越自動車道、上信越自動車道及び北関東自動車道との高速交通結節点に位置しているので、利用客は近隣住民や観光客、長距離ドライバーまで幅広い。

千曲市の参考となる道の駅：飲食店の状況

番号		①*	②	③	④	⑤*	⑥	⑦
駅名		川場	もてぎ	とみうら	しーまーと	あらい	たぬま	ららん藤岡
和洋中総合		○	○	○		○	○	○
和食	そば	○				○		○
	寿司					○		○
	炉端海鮮				○○○			
	居酒屋							
	牛丼					○		
	総合					○		
中華	レストラン						○	
	ラーメン	○	○			○		○○
その他	ビア	○						
	ドイツ	○						
	韓国							○
	郷土	○						
	総合						○	
軽食	ソフトクリーム	○	○					○○
	タイたこ焼き		○				○	
	ハンバーガー						○	
	ポテト						○	○
	だんご						○	
	おにぎり	○						
	ピザ・パスタ	○				○		
	クレープ	○						
	パンケーキ						○	
	ジェラート						○	
	喫茶							○
ベーカリー		○				○	○	
特記事項	入場者数	190万人	200万人	50万人	140万人	320万人	210万人	270万人
	売上	20億円	10億円	6億円	11億円	25億円	16億円	
	人口	3,600人	11,600人	5,600人	46,000人	31,000人	30,000人	64,500人
	新規雇用	80人	73人	60人	100人			
	特記事項	高級志向	柚子	枇杷	魚介類	防災拠点	百貨店手法	飲食集積

- ・○は店の数、斜線は未確認
- ・とみうらは旧富浦町の人口、たぬまは旧田沼町の人口
- ・■（塗りつぶし）は国土交通大臣選定全国モデル道の駅
- ・番号に*がついている川場とあらいは国土交通省認定防災道の駅

■ 千曲市「道の駅」候補地の選定

1. 前提条件

- 千曲市が道の駅を設置するにあたり、その前提条件は、第一に地域防災拠点であること、次いでコンセプト＝活力ある地域社会の創造(多機能拠点)です。以上を念頭に候補地の比較検討を行います。

2. 該当エリアの検討

(1) 地域防災拠点の役割を担う

- 令和元年東日本台風で千曲市は甚大な被害を受けました。防災センターが設置してある市役所周辺道路が冠水したため、洪水に対応できる第 2 の防災センターが求められています。
- 総合的な防災施設などの集積・避難所が必要とされています。

(2) 市全域をくまなくカバーする

- 千曲市の観光資源、地域製品の認知度を高め、ブランド化の推進や各種産業振興に寄与するため、千曲市を代表する中核的な施設となるものが求められます。
- 地域資源を網羅する等、市全域をカバーすることを念頭に置く必要があります。

(3) 市域を越えた広域エリアを視野に入れる

- 千曲市は各種道路の整備が進み、広域的な交通の要衝として更なる発展が期待できます。
- 人流、物流の両面から立地的優位性を最大限に活用することが可能です。
- 更に千曲市への誘導だけに留まらず、観光客、ビジネス客に対して行動拠点の利用も視野に入れた展開が可能になると考えられます。

■ 道の駅整備に向けた課題

1. 該当エリアの選定

- 収益性の高い持続可能な道の駅には、より多くの利用客と効果的に誘導できる交通条件や、施設が機能を十分発揮できる敷地の確保が立地選定の基本的な要件になります。

(1) 具体的選定指標

- 千曲市道の駅の役割は地域防災拠点と多機能拠点です。
- この役割が確実に果たせる路線要件や敷地要件が必要と考えられます。
- 道の駅整備の検討候補地を選定する指標を下記の通りとします。

①路線種別	•本市と市外を結ぶ幹線道路は国道、県道であり、併せて市内の各地域を縦横に貫通する主要な幹線道路等が対象になります
②路線交通量	•一定規模以上の交通量のある幹線道路等が対象になります
③敷地規模確保	•道の駅を整備するために必要な規模の敷地確保が必要になります •上記路線に面し概ね 3ha 以上の平坦な敷地が確保できるエリアが対象になります

- 千曲市の参考となる道の駅や国土交通大臣選定全国モデル道の駅の中には、接道する路線種別や路線交通量において必ずしも優位な条件を持たないものでも、機能選択や運営の工夫・努力によって目覚ましい成果を上げているものも少なくありません。

(2) 選定要件項目と指標

①路線種別

ア. 指標

- 本市と市外を結ぶ主要な幹線道路沿線

イ. 具体的な路線

- 高速道路、高規格道路、国道
 - ・長野自動車道、上信越自動車道、
 - ・国道 18 号、国道 18 号バイパス、国道 403 号、主要地方道、一般地方道
 - ・県道長野上田線、県道白石千曲線、都市計画道路千曲線

②路線交通量

ア. 指標

- 路線 24 時間交通量

イ. 具体的な指標

- 24 時間交通量が 5,000 台以上あること

③敷地規模確保

ア. 指標

- 当該路線沿道に道の駅整備に適した規模の敷地が確保できること。

イ. 具体的な指標

- 概ね 3ha 程度の面積をもち、平坦で整形な敷地が確保できること。
- 防災拠点として機能させるには駐車台数は 1,000 台、約 2ha が必要です。
- 千曲市の参考となる道の駅は 3ha 以上の規模を有しています。

(3) 該当エリアの選定結果

①県道長野上田線さらしなの里古代体験パーク北側

- 県道長野上田線更級小学校の近隣で、上信越自動車道が平行しているエリアです。
- 川西地域と戸倉上山田地域のほぼ真ん中に位置しています。
- 一体は傾斜な農地が主体です。
- 文化財の所在も確認されています。

②八幡地区国道 18 号バイパス周辺

- 国道 18 号バイパス沿いで、国道 18 号、県道長野上田線、上信越自動車道の主要幹線道路が平行しているエリアです。
- 千曲市街地の川西地域に位置し市街地との関係性も強く、一体は平坦な農地が主体です。
- 自然災害のリスクが極めて低いエリアでもあります。
- 文化財の所在も確認されています。

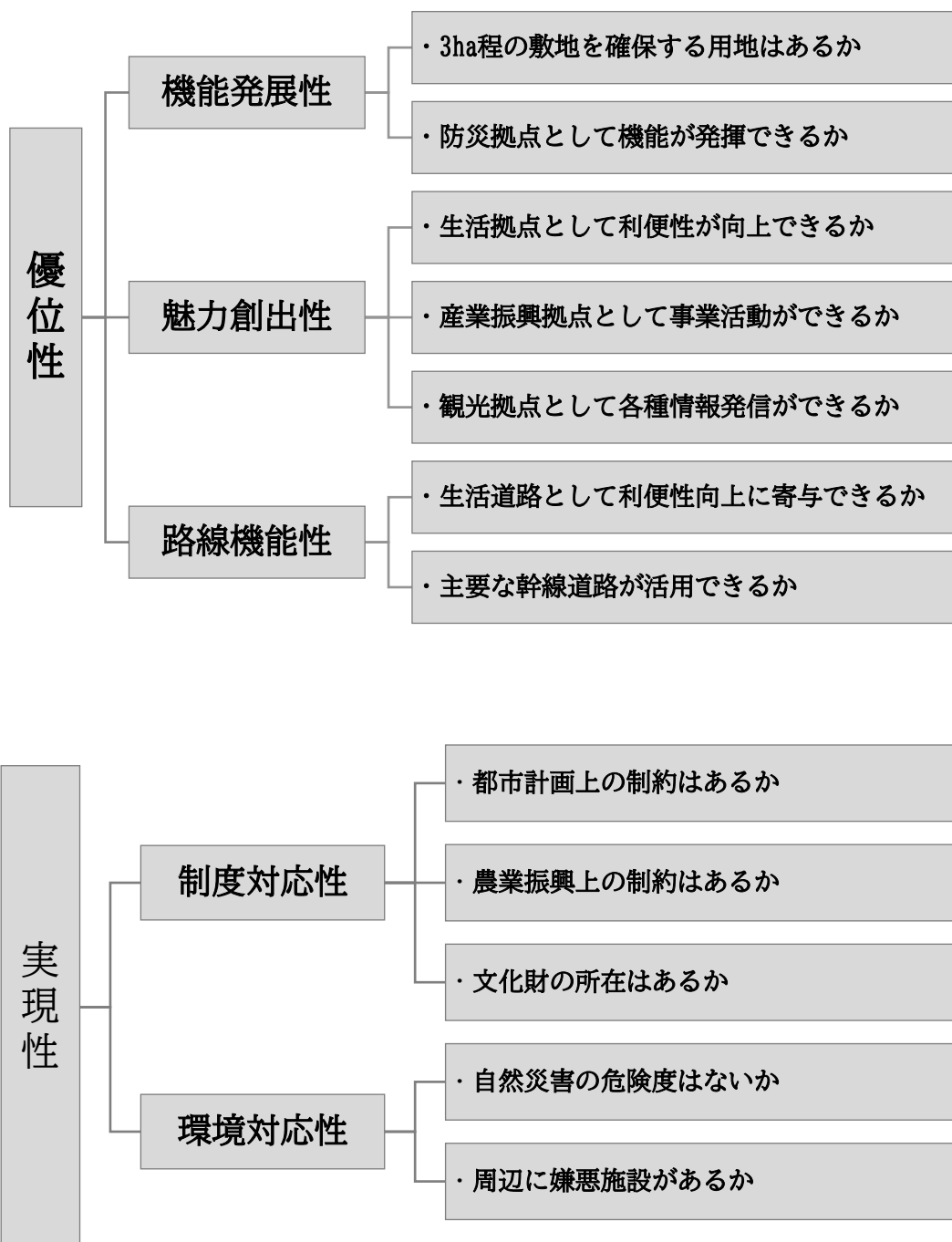
③屋代地区開発地域付近

- 県道白石千曲線沿いで、上信越自動車道が平行しているエリアです。
- 千曲市の東部に位置し、一体は平坦な農地が主体です。
- 市道「一重山 2 号線」整備事業が計画され、スマート IC の設置も検討されています。
- 想定浸水深 5.0～10.0m未満に指定されています。
- 文化財の所在も確認されています。

(4) 該当エリアの評価：定量評価と定性評価

① 定量評価

- 定量評価は、「優位性」と「実現性」の観点から評価します。



【優位性】に関する具体的評価指標の定義

機能発展性	<ul style="list-style-type: none">・道の駅の機能を効果的に展開する敷地規模の確保と、将来の規模拡充に向けた敷地余力を評価するもの・地域の防災拠点としての役割を發揮する発展性を評価するもの
魅力創出性	<ul style="list-style-type: none">・「地域連携機能」として多様なニーズに応えたり、地域固有の自然や風土を感じることができ、消費や各種活動を通して地域の認知度を高め地域経済・社会の発展に繋げる能力を評価するもの
路線機能性	<ul style="list-style-type: none">・利用客を効果的に吸引する路線能力の高さや、市内全域に分散する観光資源や地域物産へ利用客を誘導する路線特性など、関係する路線の機能性を評価するもの

【実現性】に関する具体的指標の定義

制度対応性	<ul style="list-style-type: none">・国土交通省が定める道の駅登録に係る近隣道の駅との距離的關係や、都市計画区域、農業振興地域、文化財等に係る法規制等の制度対応を評価するもの
環境対応性	<ul style="list-style-type: none">・集客施設の環境要素として、自然災害の危険度や周辺の嫌悪施設、悪臭や騒音等による快適性・安全性への影響を与える要因の有無や、敷地の起伏や道路との高低差による造成量の多寡等、環境への対応性を評価するもの

②定性評価

- 定性評価は、「市全域への防災貢献度」「市全域経済への地域経済波及貢献度」
- 「来客者への魅力訴求度」「農産物ブランド発信力」「まちづくり貢献度」の観点から、各エリアの「強み」「弱み」について評価します。

定性的評価項目と定義

評価項目	定 義
①市全域への防災貢献度	<ul style="list-style-type: none"> •充実した設備を持つ防災施設は、千曲市の安心・安全への備えに繋がりにリスク回避の観点から評価する。 •千曲市民だけにとどまらず、広域にわたる救援活動にも貢献でき、千曲市の取組み姿勢をアピールできる。
②市全域への地域経済波及貢献度	<ul style="list-style-type: none"> •道の駅に利用者が集まり、市内の観光スポットへの回遊や農産品・工芸品等の購入、飲食、宿泊等に伴う消費行動による経済的効果が、市全域に及ぼす波及貢献度合を評価する。 •判断基準は滞在、回遊に伴う購買、飲食、宿泊等の消費行動がどのようにエリアで誘引され、地域経済に波及するかという観点で見ていくこととする。
③来客者への魅力訴求度	<ul style="list-style-type: none"> •地元住民が生活する上で利便性を実感でき、更に当該エリアへの訪問者が、その場所で享受できる千曲市の魅力を定性的観点から評価する。 •千曲市の魅力の要素としては、自然景観・眺望・買物・飲食・文化施設等の拝観、体験などから得られる魅力を対象に想定する。
④農産物ブランド発信力	<ul style="list-style-type: none"> •地域の農産物のブランド発信力の評価方法としては、ブランド発信の現場への距離やそれらが醸し出す雰囲気などの程度、感じることができるかを評価するものである。 •ブランドそのもの、発信方法については各エリア共通との前提とする。
⑤まちづくり貢献度	<ul style="list-style-type: none"> •道の駅の稼働に伴う新たな商業・サービス機能が定着することや、来訪者の消費やイベント等による賑わい創出、交流活動の展開を通して、地域におけるまちづくり気運の盛り上げにどの程度貢献するかを比較検討する

該当エリアの総合評価

定量評価と定性評価を踏まえ、総合的な判断から3つのエリアを評価します。

評価項目		No.	小項目	更級	八幡	屋代	
定量評価	優位性	1	敷地規模が支障なく確保できるか	2	10	10	
		2	市内、近隣の防災力向上に貢献するか	3	5	3	
		魅力創出性	3	魅力ある施設を集積し、生活の利便性を向上させる	5	5	5
			4	創出された賑わいを地域の経済活動に波及させる	5	5	5
			5	観光に繋がる眺望・景観等に魅力があるか	5	5	3
		路線機能性	6	周辺住民の生活道路として機能しているか	3	5	5
	7		主要な幹線道路があるか、または接続しているか	3	5	5	
	実現性	制度対応性	8	都市計画上の制約はあるか	5	5	1
			9	農業振興上の制約はあるか	3	5	1
			10	文化財保護上の制約はあるか	5	5	3
		環境対応性	11	自然災害の危険度はないか	6	10	2
	12		周辺に環境阻害要因はないか	5	5	5	
合計評点				50	70	48	

評価項目		更級	八幡	屋代	
定性評価	①市全域の防災貢献度	強み	—	災害の危険度が極めて低く、環境機能面においても整っている	—
		弱み	平坦で整形な敷地規模が確保できないので、役割が十分果たせない	—	市東部にあり、市西部、南部等市全域への波及貢献度が弱い
	②市全域への地域経済波及貢献度	強み	—	観光・回遊の消費誘導の点で市内全域への利便性に優れる	—
		弱み	市南部にあり、市東部、北部等市全域への波及貢献度が弱い	—	市東部にあり、市西部、南部等市全域への波及貢献度が弱い
	③来客者への魅力訴求度	強み	—	市街地や各種観光スポットに近く、訴求度に優れる	—
		弱み	市内各観光スポットへの誘導が弱い	—	市街地にあり、市内観光スポットへの誘導が弱い
	④農産物ブランド発信力	強み	—	—	あんず生産日本一の産地で、更にブランド力アップの可能性が持てる
		弱み	農産物を販売する施設が規模、商材等の面で課題がある	農産物を販売する施設が規模、商材等の面で課題がある	—
	⑤まちづくり貢献度	強み	—	防災面に優れ、開発余力が備わっているため、地域活性化が可能である	—
		弱み	賑わいを誘導する市街地が遠く、開発余力に乏しい	—	市東部にあり、市西部、南部等市全域への波及貢献度が弱い
結果評価		○	◎	△	

2. 候補地の比較検討

- 千曲市「道の駅」設置の前提条件は、地域防災拠点であり、活力ある地域社会の創造です。
- 定量評価、定性評価を基に、候補地を比較検討していきます。

(1) 候補地の総合評価

①県道長野上田線さらしなの里古代体験パーク北側【50点】

- 定量評価では多くの項目で高い得点を得ていますが、傾斜地であり、地域防災拠点として不可欠な平坦で整形した敷地の確保に問題が生じています。
- 将来18号バイパスが開通すると、交通量が激減することが予想されます。

②八幡地区国道18号バイパス周辺【70点】

- 定量評価では全ての項目で満点を獲得しており、3つのエリアの中では最高点を獲得しています。地域防災拠点として必要な課題もクリアしており、多機能拠点へ発展できる可能性も高いと思われます。
- 道の駅期成同盟会では、バイパス沿いの八幡小学校北側付近を適地としています。

③屋代地区開発地域付近【48点】

- 定量評価では幾つかの項目で高い得点を獲得していますが、想定浸水深5.0m～10.0m未満に指定され、水害リスクの高いエリアです。令和元年東日本台風で被災した千曲市にとって、ここへ地域防災拠点を設置するには厳しい状況です。

(2) 候補地の最適地

- 総合評価を踏まえ、②八幡地区国道18号バイパス周辺が最適なエリアです。